

[調査会 NEWS 766](21.3.26)

■公開の失踪者所在確認

0番台の特定失踪者である本多政幸さん（平成2年失踪）の所在が関東地方で確認されました。詳細についてはプライバシーの問題がありお知らせできませんが、失踪について北朝鮮との関連はなかったものと思われます。ご尽力いただいた機関の方々に御礼申し上げます。

恐縮ですが、ポスター等掲示いただいている方は本多政幸さんのところを消していただけると幸いです。なお、同じ姓の方で昭和55年失踪の本多茂樹さんがおられますが、こちらはそのままですのでご注意ください。

◎所在確認された人の発表について

荒木和博

本件に限らず、日本国内で拉致と関係ない失踪だったことが明らかになった場合は、調査会としては非公開の方々も含めて発表しております（もちろん、非公開の方については氏名を出すことはありません）。失踪の経緯等詳細については特別の理由がない限り公開しませんが、このように国内で所在確認された人について発表するのは、特定失踪者があくまで「北朝鮮による拉致の可能性を排除できない失踪者」であり、そこには拉致でない人も含まれるということの意味していることを知っていただくためです。

そして、私たちは特定失踪者リストの中に拉致でない人が入っているのと同様、拉致である人もいるという前提で情報を収集し、拉致である人を救出するという作業を行っています。

ときどき「もっと拉致を前面に出すべきではないか」、逆に「もっと拉致であるとの証拠が集まってから公開すべきではないか」とのアドバイスもいただきますが、最初からすべてが拉致であるような言い方をすれば、運動としては

やりやすいのですが、今回の本多さんのケースのように国内でみつかった場合、逆に全体が可能性が低いのではないかと思われる可能性もあります。

また、反対に、もっと確証を得てからというのも非常に困難です。長期間が経過しているケースが多く、失踪時点で拉致と疑われ捜査されたケースはごく一部に留まるからで、証拠となるものはほとんど残っていません。膨大な人とカネを使っている警察の捜査でも結局 6 年半前、9. 17 小泉訪朝で北朝鮮が拉致を認めた後認定に持って行けたのは田中実さんと松本京子さんのお二人、及び認定ではありませんが警察独自の断定による高敬美・剛姉弟だけであることからその困難さがお分かりでしょう。したがって、「確証を得てから」ということになれば拉致をされていても大部分のケースは何もできないことになり、要は大部分の拉致被害者を見殺しにすることになります。

先日発表した熊倉さんの場合、発表してメディアの方々が報道して下さったおかげで新たな情報が色々寄せられています。曾我ひとみさんのケースも、北朝鮮が自分から発表せず、証拠があるかないかでやっていたら今も政府認定はされていなかったはずです。大事なのは北朝鮮に拉致されている人を助けることであり、調査会としては今後もこの立場でやって参ります。ある意味ではアクセルとブレーキを一緒に踏むようなことであり、関係各方面にはご迷惑をおかけしますが、救出のためにはこの方針を貫く以外に方法はないと思っております。ご理解をよろしくお願い申し上げます。

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

★3月28日（土）13：00「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集

会」（同会実行委員会主催）

●横浜情報文化センター 情文ホール（みなとみらい線「日本大通り駅」下車）

●代表荒木が参加

●問い合わせ：090(9816)2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

MMMMMMMMMMMMMMMM

[調査会 NEWS 765](21.3.22)

■アジア人権人道学会について

さる 17 日の記者会見の発表事項のうち、アジア人権人道学会発足についての記者会見部分の資料をまだお知らせしていませんでした。記者会見にはこの学会発足の中心となっている川島高峰明治大学准教授と加藤博北朝鮮難民救援基金事務局長・三浦小太郎守る会代表・宋允復 NO FENCE 事務局長が参加されました。

<アジア人権人道学会のご案内>

(Asian Human Rights & Humanity Association of Japan)

● 2009年 5月 9日 (土) アジア人権人道学会、結成大会が開催されます。

● 2009年12月12日 (土) アジア人権人道学会、総会を開催します。会場は明治大学お茶の水校舎・リバティタワーで開催します。

★アジア人権人道学会とは (学会の基本理念)

アジア人権人道学会は、21世紀のアジアの人権・人道問題への貢献を通じ、我が国の名誉ある地位を守ることを目指すものである。この目的達成のため、本学会は、四つの学際を掲げる。

第一に「媒体としての学術」として、人権NGO、関連省庁、国際機関、学術研究者、報道機関などの間で価値と情報の共有の場を創造することを目指す。

第二に、「人権人道をめぐる政治文化の比較分析」として、「中国とその隣接国」と「中国の非隣接国」との比較に重点を置き、アジア地域における国際人

権システムの確立を目指す。

第三に、「人権人道のガバナンス」として、人間の安全保障と国家安全保障の双方が相互補完的に機能することで、人権人道をよりよく守ることができる条件とは何かを模索する。

第四に、「21世の日本・アジアの内地雑居文化」として、グローバル化を「国際人権の国内化」と「国内人権の国際化」がアジア全域で同時進行する時代と捉え、日本とアジアに共有・共感し得る新たな共同体の規範や思想文化の創造に努める。

★実施事項

基本理念を踏まえた、研究報告会、論文集等の刊行

★設立の経緯について

2006年、北朝鮮人権侵害問題啓発週間が北朝鮮人権法により法定化されて以来、北朝鮮人権問題に取り組む諸団体がこの週間（12月10～16日）に集中して集会を開催するようになった。

2007年の人権週間実施後、各団体が合同で反省会を行う中で、次年度の人権週間の集会を合同開催することが検討された。特に、脱北者問題とは中国問題であり、脱北ルートが東アジア・東南アジア全域に拡大していることなどから、これを「アジア人権人道学会」として構想された。

2008年12月14日「アジア人権人道学会設立準備期成会」として、初めて北朝鮮人権問題六団体が合同開催で集会を実施し、チベット、モンゴル、ミャンマーの在日人権団体も企画展示に参加した。

2008年人権週間の反省会を通じて、学会結成大会及び2009年総会の実施が決定された。

* アジア人権人道学会設立準備期成会 共催六団体

特定失踪者問題調査会・北朝鮮難民救援基金・北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会・NO FENCE（北朝鮮強制収容所をなくすアクションの会）・RENK（救え！北朝鮮の民衆／緊急行動ネットワーク）・北朝鮮による拉致被害者の救出にとりくむ法律家の会

問い合わせ先

メール 学会事務局 glhuman@kisc.meiji.ac.jp

郵便 〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1 明治大学研究棟 512 号

川島高峰・情報コミュニケーション学部准教授 電話 03-3296-2049(Fax 兼)

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

★3月28日（土）13:00「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集

会」（同会実行委員会主催）

●横浜情報文化センター 情文ホール（みなとみらい線「日本大通り駅」下車）

●代表荒木が参加

●問い合わせ：090(9816)2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★3月29日（日）14:00「救う会三重講演会」（救う会三重主催）

●じばさん三重（近鉄四日市駅下車）

●常務理事杉野が参加

★4月18日（土）13:30「荒木和博さんを囲む会」（救う会群馬主催）

●前橋市総合福祉会館（前橋市日吉町 2-17-10 Tel 027-237-0101）

●代表荒木が参加

●問い合わせ：救う会群馬（027-243-4237）

55年2月4日(当時30歳)ではなく、昭和54年2月4日(当時29歳)であると確認されたので訂正いたします。

ちなみに、ご家族が失踪時期を誤って記憶されていたり、はっきりと覚えていないケースは特定失踪者の中でも何件もあります。これは失踪がきわめて深刻な(場合によっては死亡以上に)精神的苦痛を家族に与えるものであるため、長期間経過して新たな情報が何もない場合、思い出すのが辛いので記憶の奥にしまいこんでしまっ出てこなくなるということです。

■調査会役員の参加する講演会等の予定(公開の拉致問題に関するイベントのみ)

★3月28日(土) 13:00 「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集

会」(同会実行委員会主催)

●横浜情報文化センター 情文ホール(みなとみらい線「日本大通り駅」下車)

●代表荒木が参加

●問い合わせ:090(9816)2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★3月29日(日) 14:00 「救う会三重講演会」(救う会三重主催)

●じばさん三重(近鉄四日市駅下車)

●常務理事杉野が参加

★4月18日(土) 13:30 「荒木和博さんを囲む会」(救う会群馬主催)

●前橋市総合福祉会館(前橋市日吉町2-17-10 Tel 027-237-0101)

●代表荒木が参加

●問い合わせ:救う会群馬(027-243-4237)

★5月16日(土) 14:00 「中村三奈子さんを探す会集会」(同会主催) ●川崎コミュニティセンター(長岡市川崎6-2407-5 Tel 0258-35-3935)

●代表荒木が参加

熊倉 清一（くまくら せいいち）

性別：男

生年月日：昭和 24 年 11 月 7 日

失踪年月日：昭和 55 年 2 月 4 日

当時の年齢：30 歳

当時の身分：蒔絵師（吸物椀や重箱などの高級漆器に絵を描いていた）

失踪場所：福島県会津若松市

身体的特徴：身長 165cm 十二指腸の手術痕

失踪の経緯：高校時代の友人 A さんが「新潟に行ったことがない」というので、本人の車に乗せて新潟へ向かったが、そのまま 2 人とも行方不明。新潟県五泉町（現五泉市）の親戚に向かったはずだが、親戚宅に姿を見せていない。会津若松から新潟にかけて阿賀野川沿いを走る国道などを探したが、事故などの痕跡もなく、車も発見されなかった。

2、しおかぜ近況報告

（1）韓国でのモニタリング

3月11日～14日、「しおかぜ」のモニター調査を韓国で行いました。場所は韓国北東部、38度線より上に位置する東草（ソクチョ）、ソウルから230km 日本海に面した港町。ここから55km ほどで高城（コソン）、そして北朝鮮との国境となります。北朝鮮近隣地域のモニターは、ソウルにて韓国の東北亜細亜放送研究会の皆様のご協力により行われ、その他中国の各地域からは熱心なリスナーによる受信報告によりモニターをしてきました。今回の目的はこれまで確認が出来なかった地域をターゲットに、季節による伝搬の変化、日本からの伝播状況、北朝鮮からの妨害電波の影響、その他混信の状態などを確認し、今後の放送へ関わるデータを収集するためです。

モニター方式は2通り、ソニー製ワールドレシーバー＋外部接続ループアンテナと北朝鮮でも手に入りやすい中国製の短波ラジオで行い、基本は室内、状況により屋外も想定してモニターを開始。その中から抜粋した状況を報告しま

す。

● 12日夜、若干のノイズ、混信はあるものの変調は非常に厚くボリュームを押さえて聴くほど入感も強く、懸念される妨害電波の影響は全く無し、また、中国製の短波ラジオの聴取でも十分な入感が得られた。

● 13日朝、放送開始時は電離層の活動が弱いためか、夜に比べて若干薄く聴こえはじめたが、夜が明け初め、後半になるにつれて非常に強く受信することを確認できた。

高城（コソン・韓国）－元山（ウォンサン・北朝鮮）まで約100km、今回のモニターで昨年8月に産経新聞で報道された「元山の市民9割がしおかぜを聴いている」という記事も9割の数字はともかく十分に理解できる話だと確信することができました。また、妨害電波の発射角についても、北朝鮮は海外向けのアンテナを使用している事は間違いなく、専門家によれば、その妨害範囲は発射地点より数キロ圏内にとどまり、地上で大きく反射（スキップ）して、次に落ちてくるのは日本で言えば中部地方から東側ではと予想が出来ます。

よって北朝鮮内に於ける、極限られた地域での妨害は別として、その他多くの地域では十分に受信可能と想定出来るということになります。今後も北朝鮮近隣地域のモニターは積極的に行い、多くの方々からの志のご支援を無駄にする事なく、出来るだけ聴きやすい状態を確保ために努力して参ります。

（2）無線局免許再取得

今年で「JSR しおかぜ」となり早くも2年が過ぎようとしています。2年前の無線局（特別業務の局）免許取得時は、一刻でも早く放送を終えることを念頭に2年間の有効期限で総務省より免許を交付していただきましたが、残念ながらその期限内には放送を終えることは叶いませんでした。「しおかぜ」はすべての拉致被害者、北朝鮮に囚われて戻れなくなった皆さんを救出するまで放送を終わる事は出来ません。

場でもいろいろ議論があったのですが、現在の拉致被害者認定において問題を複雑化させている理由のひとつに、認定が支援法によって行われていることがあります。

もう 6 年以上経っているので経過をご存じない方が多いと思いますが、9. 17 小泉訪朝のひと月後に 5 人の拉致被害者が帰国したさらにふた月後の平成 14 (2002) 年 12 月 10 日、「北朝鮮当局によって拉致された被害者等の支援に関する法律」(通称支援法) が制定されました。条文は官邸のホームページから見ることができます。

<http://www.rachi.go.jp/jp/shisei/hourei.html>

この法律は帰国した被害者を支援することを目的とした法律です。帰国した被害者の支援は当然のことであり、あのときのどたばたの中で関係者の皆さんはかなり苦勞をして作られたのでしょう(議連総会でも当時官房副長官として支援法制定に努力された安倍元総理が当時のことを語っておられました)。しかし、問題は帰国した被害者を支援するための法律による「認定」が、まだ北朝鮮にとらわれている拉致被害者の救出の基準になっていることにあります。

現在政府が北朝鮮から帰国(救出ではない)させようとしているのは認定被害者だけであり、それ以外の被害者は「認定されれば」、というのが基本的な姿勢です。しかし、支援法制定以後 6 年あまりの間に認定されたのは田中実さんと松本京子さんの 2 人しかいません。警察的な証拠主義に基づく拉致認定がいかにも難しいかは誰の目にも明らかです。また、証拠がいくらあっても寺越事件のように認定されないケースさえあるのです。

帰国できた人の支援であればこの基準で問題ないでしょう。事実関係は明白なのですから。問題は北朝鮮にいて、大部分を北朝鮮当局が隠しており、またほとんどは現時点で政府が拉致認定をしていない拉致被害者を助け出すことにこの法律がかえって足かせになっていることにあります。そしてそれによって拉致の全体像が矮小化されているために、結果的には未認定の被害者だけでなく、認定された拉致被害者の救出にもマイナスになっているのです。

島孝子さんの姉)・竹下珠路さん(昭和48年に失踪した古川了子さんの姉)・大澤昭一さん・茂樹さん(昭和49年に失踪した大澤孝司さんの兄)・藤田隆司さん(昭和51年に失踪した藤田進さんの弟)・森本美砂さん(昭和59年に失踪した山本美保さんの妹)・秋田正一郎さん(昭和60年に失踪した秋田美輪さんの父)・安西茂雄さん(平成8年に失踪した安西正博さんの父)・後藤日出男さん(平成13年に失踪した後藤美香さんの父)

この日までに集まった署名は107,404人分で、その一部を参加ご家族を代表して秋田正一郎さんから平沼会長に手渡し、後日他の分とあわせて拉致議連役員同行のもと官房長官に面会、署名を提出することとなりました。

今回議連宛に要請した文書の内容は以下の通りです。

平成21年3月17日

北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出するために行動する議員連盟 会長
平 沼 赳 夫 様

特定失踪者問題調査会 代表 荒 木 和 博

拝啓

拉致被害者救出のためのご尽力に心より敬意を表します。

さて、このたびは官房長官への署名提出・要請の労をとっていただき感謝申し上げます。残念ながら本日は日程の調整がつきませんでした。後日お会いできるということで、期待しております。特定失踪者のご家族としては平成18年11月に塩崎官房長官にお会いして以来2年半ぶりのこととなります。署名もご家族や支援者の皆さんがこつこつと集められたものが別紙のように10万人分を超えて集まりました。その思いをお酌み取りいただきますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。

今回の官房長官要請も拉致議連のお力添えがあったからですが、今後拉致問

題を動かすには国会のリーダーシップが何より必要と思います。以下、一層のご尽力を賜りたくお願い申し上げます。

○現在の「帰国を求める」から「救出する」へと政府がその責任を明確にするよう、国会における積極的な対応をお願い申し上げます。

○現状の拉致認定基準を見直し、積極的な拉致認定を行うよう法的措置をお願いいたします。特に既に警察が拉致と断定している高敬美・剛姉弟については早急な拉致認定をするよう対応をお願いします。

○拉致対策本部に情報収集機能に関わる活動の比重を大幅に高めること、そしてそのためにも対策本部において拉致以外の北朝鮮人権問題も管轄するよう対応をお願いします。また、対策本部が行うのか他の省庁がすべきかはともかく、日本にいる脱北帰国者などから北朝鮮情報の聞き取りを進めるよう求められたいくお願いいたします。

○上記とも関連しますが、拉致問題について国際的な広がりを持たせるためには「北朝鮮人権問題全体に取り組む日本」としての立場が極めて重要です。拉致議連の中に北朝鮮人権問題を担当する部会を設けていただくようお願いいたします。

○防衛省に対し北朝鮮の地理的情報の集積、緊急時における邦人保護次元の拉致被害者への対応準備を求めているようお願いします。

以上、特定失踪者のご家族も高齢になり、病に伏し、他界された方も少なくありません。一つひとつが切実な課題であると確信いたします。何とぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

沢茂樹（大沢孝司兄）・小林七郎（小林栄弟）・後藤日出男（後藤美香父）・安西茂雄（安西正博父）

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

★3月28日（土）13:00「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集

会」（同会実行委員会主催）

●横浜情報文化センター 情文ホール（みなとみらい線「日本大通り駅」下車）

●代表荒木が参加

●問い合わせ：090(9816)2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★3月29日（日）14:00「救う会三重講演会」（救う会三重主催）

●じばさん三重（近鉄四日市駅下車）

●常務理事杉野が参加

★4月18日（土）13:30「荒木和博さんを囲む会」（救う会群馬主催）

●前橋市総合福祉会館（前橋市日吉町2-17-10 Tel 027-237-0101）

●代表荒木が参加

●問い合わせ：救う会群馬（027-243-4237）

MM

MM

特定失踪者問題調査会ニュース

〒112-0004 東京都文京区後楽2-3-8 第6松屋ビル401

Tel 03-5684-5058 Fax 03-5684-5059

email: chosakai@circus.ocn.ne.jp

何よりも無事に終わってくれてよかったというのが正直なところでは。

飯塚代表・耕一郎さんにとって、そして金さんにとって、何とも長い道のりでした。盧武鉉政権時代に、ややもすれば大韓機事件自体が韓国政府のでっち上げにされるどころであり、金賢姫さんの身柄もどうなるか分かりませんでした。北朝鮮体制に翻弄された人生という意味では飯塚さんも耕一郎さんも金賢姫さんも、そして田口八重子さんも大韓航空機に乗り合わせた乗員乗客の皆さんも同じです。その事件が歪曲されたり忘れ去られないためにも、この面会であらためて大韓航空機事件とは何だったのか、内外に知らせることができたという意味は大きいと思います。日韓両国の政府関係者のご尽力に敬意を表する次第です。

私たちとしてはさらに金賢姫さんがこれまで明らかにできなかったことを明らかにしていただくと節に希望する次第です。今後可能な時点で特定失踪者についても新たな情報がないか確認していきたいと思っています。

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

★3月28日（土）13:00「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集

会」（同会実行委員会主催）

●横浜情報文化センター 情文ホール（みなとみらい線「日本大通り駅」下車）

●代表荒木が参加

●問い合わせ：090(9816)2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★3月29日（日）14:00「救う会三重講演会」（救う会三重主催）

●じばさん三重（近鉄四日市駅下車）

●常務理事杉野が参加

★4月18日（土）13:30「荒木和博さんを囲む会」（救う会群馬主催）

脱北帰国者の女性が自分の親族と偽って全く関係のない中国人を日本に入国させ、逮捕されたとの報道がありました。私たちにも関わりのある人であり、大変残念に思うと同時に、今後のため見解を申しあげておきたいと思います。

この事件とは関係ありませんが、私自身情報収集の過程で、あるブローカーから中国人のビザを取って欲しいと言われたことがあります。事情に詳しい人に相談したところ、「間違いなく不法滞在を想定したものだから、手を付けない方が良い」と言われてやめました。

確かにそのリストには中国の朝鮮族どころか福建省の漢族まで入っており、どう考えても日本への入国ビジネスに使われているとしか思えないケースでした。いくら中国で反日騒ぎをしても、中国人にとって日本というのは現実にはそれだけ魅力のある地だということなのでしょう。ちなみに幸か不幸か、このケースでは情報の方も極めて不確実なものでありました。

今回のことも脱北者の置かれた状況と日本への入国ビジネスの問題が関係しているのでしょうか。私自身、例えば中国人の不法入国を手助けしたら本当に日本人拉致被害者を取り返せるという確証があるなら、それに手を付けてしまうかも知れません。いわんや命がけで脱出する人が、その途中で様々な手段を使うことは一種の緊急避難でもあり、ある程度までは仕方のないことではないかと思えます。

日本国内での法律違反については司法の場で裁かれるべきことですし、問題をすりかえるつもりはありませんが、根本的には北朝鮮から脱出せざるを得ない人間がいることと、本来自由に往来できるはずの日本人妻や、家族がほとんど戻って来られないこと、つまり北朝鮮の体制にかかわる問題だと思えます。

今後脱北帰国者受け入れのみならず、拉致被害者救出の直接の活動の中でも様々に複雑なことが起きる可能性があります。DNA鑑定等も含め現地領事館で姻戚関係の証明ができるようにしていかなければなりません。一方で北朝鮮の中にいたときの状況から、自分自身が日本縁故者、あるいはその家族であることを証明しようのないケースもあり、あまり入口を閉めてしまうと、今度

F A Xプロジェクト用の番号表です。前回のものから何件か届かなかった番号を削り、一部追加しました。また、どのような組織のF A Xかも関係者のご協力で分かったところはお知らせします。この番号のすべてが現在使える訳ではありませんので、その際はご了承ください。

なお、「1 8 4をつければ回線非通知のままに北朝鮮にF A Xを送れるのか」とのご質問をいただきました。おそらく大丈夫だと思いますが、保証はできません。ただし、これまで何年にもわたって私荒木の名前でかなりF A Xを送りましたが、別に何も起きていません。北朝鮮に入っても何もされませんでしたので、あまり気にされることはないと思います。「赤信号みんなで渡れば怖くない」（文字通り「赤」信号か）で、あちこちからF A Xが届けばいちいち調べている余裕などないでしょう。

送信をしてみて届かなかったり、あるいは番号の主が分かった場合はお知らせいただけると幸いです。逐次更新して参ります。

850-2-381-2100	平壤資源再生会社・南山丘特許商標局・朝鮮烽火総会社
850-2-381-4001	朝鮮大興貿易会社
850-2-381-4007	
850-2-381-4010	
850-2-381-4013	高麗・グローバル信用銀行
850-2-381-4018	朝鮮万明合作会社
850-2-381-4020	
850-2-381-4025	Korea General Petroleum United Corporation
850-2-381-4031	
850-2-381-4033	
850-2-381-4034	
850-2-381-4035	
850-2-381-4041	
850-2-381-4042	
850-2-381-4043	
850-2-381-4047	
850-2-381-4050	

850-2-381-4051

850-2-381-4056 日用工業貿易会社

850-2-381-4060

850-2-381-4066

850-2-381-4067

850-2-381-4071

850-2-381-4074 大同江特許商標代理所

850-2-381-4075

850-2-381-4080

850-2-381-4083

850-2-381-4096

850-2-381-4097 朝鮮大同江会社

850-2-381-4098

850-2-381-4150

850-2-381-4316

850-2-381-4377

850-2-381-4403 オリンピック委員会

850-2-381-4405

850-2-381-4407 朝鮮国家観光総局

850-2-381-4408

850-2-381-4410 品質認定協会・朝鮮新日技術貿易会社・朝鮮セナル技術貿易会社・オリンピック委員会・平瑞合弁会社・蓮河機会合弁会社・平壤資源再生会社・万寿台海外開発会社グループ・会計検査院平壤事務所・朝鮮機械貿易総会社・朝鮮大電貿易総会社・朝鮮緋緞貿易会社・朝鮮名花貿易会社・小白水貿易会社・平壤雪景貿易総会社・朝鮮先鋒総会社・朝鮮七星貿易会社・朝鮮錦綾総会社。朝鮮烽火総会社

850-2-381-4411

850-2-381-4412

850-2-381-4413

850-2-381-4416 水気象省・中央統計局・朝鮮烽火総会社・朝鮮光明貿易総会社・朝鮮緋緞貿易会社・朝鮮電子製品総会社・小白水貿易会社・平壤雪景貿易総会社・朝鮮烽火総会社・朝鮮錦綾総会社・妙香総会社

850-2-381-4418

850-2-381-4422
850-2-381-4426
850-2-381-4427 水気象省・南山丘特許商標局・朝鮮烽火総会社
850-2-381-4431 朝鮮大聖第2貿易商社
850-2-381-4432 朝鮮大聖第2貿易商社
850-2-381-4435
850-2-381-4440 朝鮮国際貿易促進委員会・
850-2-381-4442 平壤楽器貿易会社
850-2-381-4443
850-2-381-4444
850-2-381-4445
850-2-381-4446
850-2-381-4448
850-2-381-4449
850-2-381-4451
850-2-381-4454
850-2-381-4461 General Bureau for Cooperation with International Organizations
850-2-381-4462
850-2-381-4464 朝鮮光明情報技術社
850-2-381-4467 朝鮮民主主義人民共和国貿易銀行
850-2-381-4470 国際企業諮問会社平壤事務所
850-2-381-4474
850-2-381-4475 朝鮮富興貿易会社
850-2-381-4476
850-2-381-4477
850-2-381-4479
850-2-381-4480 EAN DPR KOREA
850-2-381-4482
850-2-381-4485 日用工業貿易会社・牡丹峰炭酸果汁合弁会社
850-2-381-4488
850-2-381-4489
850-2-381-4489
850-2-381-4490

850-2-381-4493
850-2-381-4494 朝鮮光明貿易總会社
850-2-381-4495 朝鮮機械貿易總会社・朝鮮大電貿易会社
850-2-381-4498 朝鮮綜合設備輸出入会社
850-2-381-4502
850-2-381-4503 朝鮮映画輸出入会社
850-2-381-4505
850-2-381-4506
850-2-381-4507 朝鮮綾羅島貿易總会社・朝鮮綾羅島第6貿易会社
850-2-381-4508 恩情東亜合弁会社・朝鮮大興貿易会社
850-2-381-4517
850-2-381-4525
850-2-381-4526
850-2-381-4527 朝鮮東海外車
850-2-381-4528
850-2-381-4531
850-2-381-4531
850-2-381-4533
850-2-381-4534
850-2-381-4536
850-2-381-4538
850-2-381-4542
850-2-381-4543
850-2-381-4544 Korea Pugang Coins Corp
850-2-381-4546
850-2-381-4548
850-2-381-4549 朝鮮連合貿易会社
850-2-381-4551
850-2-381-4558
850-2-381-4560
850-2-381-4563
850-2-381-4565

850-2-381-4567 遠洋海運管理有限責任会社
850-2-381-4569
850-2-381-4574
850-2-381-4576
850-2-381-4578 朝鮮対外経済協力推進委員会・平津自転車合弁会社
850-2-381-4581
850-2-381-4582
850-2-381-4585 HKA 平壤事務所
850-2-381-4592
850-2-381-4597
850-2-381-4598 KCC 千水峰技術合作会社
850-2-381-4603
850-2-381-4606
850-2-381-4607 朝鮮・ポーランド海運有限責任会社
850-2-381-4608 朝鮮綾羅 888 貿易総会社
850-2-381-4611 対外建設総会社
850-2-381-4615
850-2-381-4617
850-2-381-4618
850-2-381-4619
850-2-381-4621
850-2-381-4622
850-2-381-4623 平瀋ゴム合弁会社
850-2-381-4624
850-2-381-4626
850-2-381-4627
850-2-381-4628 朝鮮慶興総会社
850-2-381-4629 朝鮮興盛貿易会社
850-2-381-4630 朝鮮対外経済協力推進委員会・平津自転車合弁会社朝鮮国
家観光総局・朝鮮国際旅行社
850-2-381-4632 朝鮮出版物交流協会
850-2-381-4633
850-2-381-4637

850-2-381-4642

850-2-381-4644 虹特許及び商標代理所・平壤親善文化館・対文協・平壤国際新技術経済情報センター

850-2-381-4645 朝鮮国際観光会社

850-2-381-4646

850-2-381-4647

850-2-381-4648

850-2-381-4651

850-2-381-4652 三日浦食品会社・金剛原動機合弁会社

850-2-381-4652

850-2-381-4652

850-2-381-4657

850-2-381-4660

850-2-381-4663

850-2-381-4665

850-2-381-4668 朝鮮金剛総会社

850-2-381-4670

850-2-381-4672

850-2-381-4674

850-2-381-4676

850-2-381-4677

850-2-381-4679 牡丹峰特許商標事務所

850-2-381-4685

850-2-381-4687 先端技術センター

850-2-381-4688

850-2-381-4691

850-2-381-4692 朝鮮白虎貿易会社・三日浦食品会社・金剛原動機合弁会社・連勝建設建材連合会社・強盛 26 貿易会社

850-2-381-4695

850-2-381-4698 朝鮮民主主義人民共和国国際貿易促進委員会

850-2-381-4707

850-2-381-4709

850-2-381-4712

850-2-381-4715

850-2-381-4715

850-2-381-4718

850-2-381-4720

850-2-381-4722

850-2-381-4723 大同信用銀行

850-2-381-4726

850-2-381-4728

850-2-381-4732 衛星航法局

850-2-381-4734

850-2-381-4737

850-2-381-4745

850-2-381-4746 平和自動車總会社

850-2-381-4747

850-2-381-4748

850-2-381-4750

850-2-381-4755

850-2-381-4757

850-2-381-4759

850-2-381-4760

850-2-381-4765

850-2-381-4768 華麗銀行

850-2-381-4770

850-2-381-4771

850-2-381-4772

850-2-381-4774

850-2-381-4776 朝鮮南南協力總会社

850-2-381-4777

850-2-381-4783

850-2-381-4785

850-2-381-4788

850-2-381-4793

- 850-2-381-4794 金日成社会主義青年同盟
850-2-381-4795
850-2-381-4799
850-2-381-4842 高麗経済協力推進協会・P&G
850-2-381-4857 平壤電線工場
850-2-381-5274 朝鮮光星貿易会社・朝鮮聯光貿易会社・朝鮮革新貿易会社・
朝鮮富強電子会社・朝鮮富強会社
850-2-381-5822 国際経済技術交流促進協会
850-2-381-5827 HKA 平壤事務所
850-2-381-5827 朝鮮民主主義人民共和国商業会議所・朝鮮国際貿易仲裁委
員会・朝鮮七明貿易会社・イタリア国際海洋輸送組織株式会社平壤事務所
850-2-381-7607 朝鮮国家観光総局・朝鮮国際旅行社
850-2-381-7336 ルーマニア大使館
850-2-381-7619 インド大使館
850-2-381-7703 キューバ大使館
850-2-381-8088 朝鮮万年保健総会社
850-2-381-8847 山林科学院
850-2-381-8888 朝鮮聖山貿易会社

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

★3月6日（金）18:30「ブルーリボンの祈り大決起集会」（浜松ブルーリボンの会）

●浜松市福祉交流センター（浜松駅下車 053-452-3131）

●代表荒木が参加

●問い合わせ：浜松ブルーリボンの会（info@hamamatsu-blueribbon.org）

★3月28日（土）13:00「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集

会」（同会実行委員会主催）

●横浜情報文化センター 情文ホール（みなとみらい線「日本大通り駅」下車）

報道関係各位

調査会の3月の定例記者会見は下記の通り行われる予定です。報道関係の皆様には多忙の中申し訳ありませんがご対応賜りますようお願い申し上げます。

日時 3月18日(水) 14:00～

場所 第6松屋ビル3F(調査会事務所の下)

内容

アジア人権人道学会の発足について(関係団体の代表も参加されます)
0番台リスト発表(1名予定)
政府・拉致議連への署名の提出及び要請について
その他

■小沢発言について

荒木和博

今日の産経新聞に小沢一郎・民主党代表の発言が載っていました。

「拉致問題は北朝鮮に何を言っても解決しない。カネをいっぱい持っていき、『何人かください』って言うしかないだろ」

記事には箝口令が敷かれたと書かれていますので、事実関係の確認はできないかもしれませんが、この際民主党は拉致問題にどう取り組むのか、明確にしていきたいと思えます。

民主党の議員さんの中には自民党より拉致問題、北朝鮮人権問題に熱心な方も多く、調査会としてもこれまでいろいろな側面で協力をしていただいています。個人的には私の古巣の民社党から行った人も多く、知己も多いので何かと

無理を聞いてもらってもいます。

自民党の支持率低迷もあり、次期総選挙での政権交代の可能性も高まっています。私たちとしても、政権交代によって今政府が拉致問題について隠していることの一部でも国民の前に明らかにできるのではないかという期待も持っています。しかし、そこでどうしてもひっかかるのが「今の民主党で本当に大丈夫なのか」という、おそらく多くの国民が持っているであろう疑問です。特に、これまでほとんど拉致問題への言及を聞いたことのない小沢代表が、今回のような発言をしたとなると、いくら熱心な議員さんがおられても不安が高まることは否定できません。

この際、不安を払拭するためにも小沢代表自ら「民主党政権になったら今のよう『帰国を求める』ではなく、責任をもって救出を実現する」と宣言し、具体策を提示していただけないでしょうか。そうすれば国民は民主党政権を安心して迎えられますでしょう。逆に自民党が今までの方針を転換して「拉致された国民を救出する」と明確に打ち出し、広報活動ではない、具体的な救出作業を進めていけば支持率は今からでも回復できると思うのですが。

先週土曜、名古屋で田母神俊雄・前航空幕僚長、増元照明・家族会事務局長と講演会でご一緒しました。田母神さんは「自衛隊を動かしてでも、ぶん殴るぞという姿勢見せなければ拉致問題は解決しない。何もしないと分かっていたら相手は言うことを聞くはずがない」と語られましたが、シビリアンコントロールを守ろうとするなら、この姿勢を最も見せるべきは政治家です。拉致被害者の救出にあたっては「救出する」という決意をまず政治が行わなければなりません。交渉はそのための手段のひとつであって目的ではありません。

「何人かください」とか「帰国を求める」などと、この国を動かしている人たちが言っているようであれば、政権交代以前に政治への不信はさらに高まるでしょう。

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

